

第34回「桃陰文化フォーラム」報告

梅雨に入って間もない6月11日(土)、木田章義先生をお迎えして、桃陰文化フォーラムを開催いたしました。「日本語とはどんな言語か～その歴史と背景」と題するご講演に、在校生、保護者、先生と同期の卒業生の方々80名が熱心に拝聴いたしました。先生は本校20期の卒業生で、京都大学・大学院で国語国文学を専攻された後、平成26年に京都大学を退官されるまで、研究一筋に歩んでこられました。ここ3年ほどは、本校生も京大見学会の折にお世話になっております。



先生が国語学に進まれたのは、高校2年時に桃陰会館で折口信夫と出会ったのがきっかけです。それまでは陸上部で長距離走を頑張っておられたのですが、文芸部に「潜り込んで」同人雑誌に歌を載せたり、「ふらっと」旅行に出かけたりするようになり、おかげで成績は急降下、ようやく2年生の正月から勉強を始めて、効果が現れたのは3年生秋になってからでした。「京大には最低点で合格したんです。」とおっしゃる先生は、受験は基礎力があれば大丈夫、あとは集中力と整理力で力を高めていくことが必要だと強調されます。これには聴衆一同、食い入るように聞き入っていました。

「外来語の中でも欧米語をそのままカタカナ表記で使うのは、欧米語はカッコいいと考えているから。」このように私たちの気持ちをズバリ言い当てられると、先生はグイグイ講演に引き込んでいかれました。

日ごろ何気なく使っている言葉も、気をつけて見ると歴史や文化を反映しているのがわかります。漢字の読み方一つ取り上げても面白い歴史がわかります。遣唐使が持ち帰った漢音は、奈良時代以降の実務官僚には必須の標準語になり、一般の人々にも奨励されましたが、仏僧はもっと古い時代に入っていた呉音に慣れていたので漢音には改めませんでした。しかし江戸、明治とだんだん仏教の政治力・影響力が弱くなるにしたがい、呉音で読む事が減っていったのです。また「肌寒い」「心苦しい」のように日本語に複合語が多いのは、感覚に応じた造語ができるからですが、現代は残念ながら新しい複合語が生まれていません。私たちの表現力や感覚が弱くなっているからでしょう。辛うじて「あかん+くない→あかんくない」があるくらいでしょうか。この他、ら抜き言葉や「～になります」「させていただきます」のように、現在その使用に賛否が分かれている言葉も取り上げ、社会状況や意識の変化を読み解かれました。

最後に日本語起源論にも触れられました。日本語の起源と聞いてすぐに思い出すのが、大野晋のタミル語起源論です。この学説は各界から批判され、以後、日本語起源研究はタブーになりました。しかし木田先生は大いに興味を持っていらっしゃったため密かに研究を続け、退官時にその成果を発表されたのです。——これまで長い間、日本語はアルタイ系言語と考えられてきた、確かにその言語群には日本語文法に近いものが多い、しかし言語学では単語の近さの



方が重要である、日本語単語に近いものを持っているのはタミル語である——。先生は、タミル語の単語を例示しながら、この学説を裏付けるためには遺伝学からの研究も必要であるとの認識を示されました。

まだまだもっと、というところで終了時刻になってしまいました。この後の質問にも丁寧にお答えいただき、日本語に改めて深い関心を持つことができました。木田先生、どうもありがとうございました。

【アンケート（一部抜粋）】

生徒：

- 外来語が私たちの生活の中に浸透している理由がなんとなく分かった気がする。古代の日本人の造語力に脱帽せざるを得ない。また尊敬語と受身表現との関係から、時代の価値観によって言語が変化することがはっきりと理解できた。やはり複数の面からアプローチすることによって一つのことが手にとるように分かる。
- とても興味深かったです。私は、古典や言語が好きで、将来深く勉強してみたいと思ってます。日本語の表現の変化や、漢語・和語についてのお話では、普段何気なく使っている言葉が、形をもったものとして現れたような気がして、はっとしました。日本語を、他の言語と比較して研究するのか…！と、少し意外な感じがしました。歴史や遺伝子など他の学問から見ていく、というのもとてもおもしろいと思いました。
- 「あかんくない」という話で、親にキモチワルイから使うのをやめろと怒られたのですが、形容詞化していったという話を聞いて納得しました。それがいちばんおもしろかったです！
- 「日本語の表現の変化」のお話が非常におもしろかったです。「させていただきます」の不自然さは今まで気付かなかったけれど、なるほどと思いました。ありがとうございました。国語はあまり好きな方ではないのですが、先生の言語学の話は分かりやすく、興味深かったです。日本語の歴史を少し調べてみようと思います。
- 何となく、日常生活で使い分けていた漢字の読み方が、音読み訓読みくらいなら知っていましたが、「呉音」「漢音」「唐音」など、分けられていると知り驚きました。現在、言葉は小説などで、やはり若者向けにでしょうか、易しい言葉遣い、読みやすさを重要視しているように感じます。言葉の変遷もおもしろいですが、これから日本語はどうなっていくのだろうかと一抹の不安を覚えました。日本語についての興味深いお話をたくさん聞くことができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。
- 面白かった。僕たちが日常で何気なく使っている日本語は改めて考えてみると、とても複雑であることが分かる。日本語がタミル語とよく似ていることに驚いた。漢字の発音も起源で分けると、三種類あることを知って、言語学は奥が深いと思った。

保護者：

- 日本語の表現の変化には、日常生活の中で思いあたるふしがあり興味深かったです。言葉の由来のお話も詳しく聴きたかったです。専門的なお話、生き方のご意見を聴くことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 大変興味深く最後まで聞かせていただきました。日本語についてのご研究の内容も大変おもしろかったのですが、先生のご経験に基づいた生き方と言いますか、先生はこのご研究をつらぬいてきた人生の流れのお話がすばらしいと思いました。今、1年生に在学している子どもにもぜひ聞かせたいお話でした。機会があればよろしくお願ひします。（続編ぜひ開催してください。ありがとうございました）

いました。)

- 学生の頃、国語苦手と思ってましたが、日本語ってすごい！！私ってすごい！！と思いました。日本人とタミル人の関係もっと知りたいと思いました。

学生の頃、言語や文法について悩み勉強したことを思い出しました。先生のわかりやすく楽しいお話を聞かせていただきとても勉強になりました。ありがとうございました。

- ・在校時のこぼれ話をしていただき、とても面白く、勇気付けられました。
 - ・資料をもとに丁寧に教えていただき、大変わかりやすく感じました。
 - ・帰宅後、部活動で参加できなかった息子と子供を見てもらっている夫にも今日聞いた内容を伝えたいと思います。ありがとうございました。"
- 日本は複雑な言語生活であると思いました。とても興味深い言語についての専門的なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。目指す生き方をもっとその方向に行くというお話も大変すばらしいと思いました。「ら抜き言葉」のところも大変役に立ちました。(最初疑問に思っていたところがあったのですが、解決できました。)

卒業生：

- 日本語についてここまでの歴史と生い立ちを考えた事がなかったです。文化の強さや、語の力で採用されて定着してゆくということもわかりました。今後も変化してゆくとすると年をとっても社会との交流を深めておく必要があると感じました。本日はありがとうございました。

一般・その他 3名

- 天高の生徒たちはほぼほとんどの子たちも大学受験をすることは当たり前になっていると思います。それゆえに、受験勉強をすることに疑問をもたない、もっても「そういうもの」とわりきっている子が多くなりがちだと思います。それを考えると冒頭のお話はとても価値あるものでした。
- 若い人の研究する心をはげますようなお話、どうもありがとうございました。